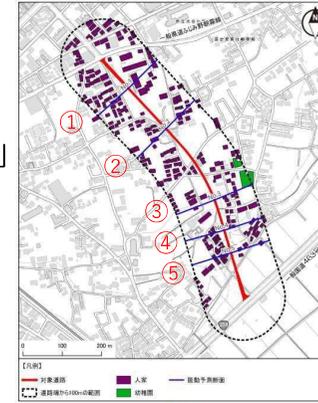


道路整備に伴う環境影響予測について（振動）

振動については、環境基本法に基づく環境基準の定めはないが、振動規制法で振動が「環境省限度値を超え生活が著しく損なわれていると認められる場合は修繕等の措置をとる」としており、振動の影響についても予測を実施した。その結果、全ての箇所において限度値を下回った。



断面 No.	昼間						保全目標
	西側			東側			
	10m	5m	0m	0m	5m	10m	
1	45	46	48	48	46	45	65
2	45	46	48	48	46	45	
3	45	46	48	48	46	45	
4	45	46	48	48	46	39	
5	41	46	48	48	46	43	

事業地周辺の自然環境について

植生

事業地内の植物では、シラカシ、ムクノキなどの樹林が占める。周辺は住宅地や畑などが占め、一部に植林地などがみられた。なお、地上から1.3m以上の高さで幹回りが300cm以上の木は確認できなかった。

No.	区分	植物群落等の確認状況	群落名
1	常緑広葉樹林	シラカシ群落	
2	落葉広葉樹林	ムクノキ-エノキ群落	
3		ヌルデ-アケボノ群落	
4	植林地 (竹林)	モウソウチク植林	
5	植林地 (その他)	植栽樹林群	
6	その他の低木林	アズマネザサ群落	
7	単子葉草本群落	オギ群落	
8		チガヤ群落	
9	1年生草本群落	コセンダングサ群落	
10		メヒシバ-エノコログサ群落	
11		ヒメムカシヨモギ-オアレチノギク群落	
12	多年生広葉草本群落	セイタカアワダチソウ群落	
13	畑	畑地	
14	グラウンドなど	公園・グラウンド	
15		人工裸地	
16	人工構造物	住宅地等	
17		道路	



生物

既存資料調査において、希少性の観点から保全すべき種として選定した生物（計56種）のうち、令和4年9月に実施した現地調査では、下記の5種を確認。

